

製 作 を 心 中 と し て

應 答 者 — 倉 橋 先 生

A 二年保育や三年保育の場合は基礎から段々に導いて行きますが、一年保育ですと、ごの子供も思ふ様に伸ばしてゆくことは難しい、私は一年保育の組許り、然も六年も續けて持たされて居りますが、ほんごにむづかしいと思ひます。出来る子供はぎんぐ進んで行きますが、力を出し切れずに小學校に送つてしまふ人もできますから、この場合ごに目當をおいたらよろしいのでせうか。いゝ子供を手傳つてやることを少くして、力の出し切れない子供に盡した方がよろしいでせうか。又その取扱ひ方も一齊にした方がいいか、分團的にしたがいゝのでせうか。一年保育の組は入園した時に随分能力に差がありますから、大きな製作をしよう致しますと、力のある子供を働かせることになつて、出来ない子供は置きざりになること云ふ様になり易いので、何時も大きな仕事をされずに小さい仕事をしてしまふ様になるのです。

倉橋 これは必ずしも一年保育の場合に限らない。何處迄子供を連れて行かうとなさるのですか。

A それ解らないのです。自分としては助手でもたく

さんあればグループをたくさん拵へて子供の個性に應じて行ける處迄行かせたいのですが。

倉橋 幼稚園に居る間が長ければ其處迄連れて行かれるが短い間に仕様をしますから難しい云ふのでせう。方針として出来ない子供をそのままに打つちやらかす云ふことは無いが時間と手が足りない處から出来る子の方が主になつてしまふ云ふことになるのですね。實際問題ですね。

A 伺ひ度ひのは共同製作、これをするに出来ない子が寄り付かなくなつてしまふのです。

倉橋 個人作業の場合大きなものはむつかしいし、グループ製作の場合は大きいもの程忙しい云ふわけですね。駄目な子がある處迄連れて行かれないことはいけないがその爲に能力のある子の延びて行くことを、云ひ變へればその子供に提供されたる幼稚園生活の利用權を妨げるわけにもゆかぬ。問題は手が足りないのを一人で如何するか云ふことになるのですね。一年かゝつて何處迄連れて行くか云ふ或標準はつきり口では云へないかも知れないが何か

あるのだから、何かして其の處迄連れて行くべく特別の注意を拂ひ目を掛ることは方針として考へたい。それにしても手がなくては困る。これは手を増やすより他ないね。

A 私はそれで困つて昨年は共同的な製作、運動會の粘土製作などで子供に子供を引っぱらせました。——共同的なものだけ出来るのですが個人的なものをやつてみようとするに出来ないで困ります。それでも子供が自分から何か拵へて見たいと思ふ氣持を起す云ふ點で少々成功した様に思つた事です。

倉橋 『何處迄連れて行かうとしないでその子の一ぱいを發揮させるがよい』と或る本で讀んだことがある。氣持はいゝのだが其處が問題ですね。貴女の苦を解決すべく極端に云へば、幼稚園の製作においては、何處迄行くか云ふ事はそんなに重大ではなく、うまからうがまづからうが何かをやつてゐる云ふこと、何かをやつてゐる云ふ處に興味があるを見たい。従つて其の子がせめて何か始終やつて居る云ふ處迄はもつて行きたい。これは一つの方針

である。小學校教育の場合は揃つて或る處迄ミ云ふこゝがあるが幼稚園の場合はそこ迄せい揃させなくともよい。まがりなりにもさうにか子供がやつて居る、出来る子も出来ない子も何かやつてゐる。それでいゝでせう。其處が小學校ミ違ふところで一年なり二年なりの幼稚園生活其ものが或る子供は充實し或る子供は充實してないミ云ふこゝではいけない。さう迄連れて行くかミ云ふこゝは第二の問題で、又實際其處迄行かないだらう。しかしこれは一般的に云ふこゝで特別にねらひを付けて子供をそこ迄つれて行つた經驗の有る方があるでせう、全般的に働かして行くミ云ふこゝが大切ですね。

O 私ならこんな方法も取ります、一齊に粘土なりなんなりさせて置いてその傍で或る子供達の共同製作を指導するミ云ふ様なこゝに。

倉橋 手が無い時特別の秘訣が何か有るかミ云ふこゝです。ね。

A 子供の心理的な問題ですが上手な子が下手な子に手傳つてやつたりする時その子は自分が手傳つたミ云ふこゝ

にある誇を感じたり又下手な子は下手なりにやりたい氣があつたりする時のこちらの態度なき。

倉橋 それは非常に大切なこゝです、(先生自身でさへ貴方は下手だミ顔に現はすかもしれない)、下手ながらやりた氣がある其處が摺み所で下手なら下手でいゝでせう。何かしらしてゐるミ云ふ事になつたら、そこでいゝミ云つては困るが第一はそこでせう。やりたく無い子供をそこ迄連れて來るミ云ふ事それが幼稚園の職能でせう。

A 回数を重ねるさうまくなります。

倉橋 やつて居れば上手にもなつて行くでせう。技能指導は個人指導ですね。一人の子を指導するために三十九人を捨て、おくミ云ふ他に、全體を取り扱ひながらの個人指導は、これは長年の經驗でせうね。

A それから材料の與へ方ですがぎんぐ、出来る子にたくさん與へれば出来ない子供にも出来ないこゝがわかつて居ながら與へないでは居られない様な氣がしたりして。

O 習慣もありますね、貴方はこの次にねミ云ふ様なこゝで、でも次には本當にやらなければね、虚をつく事にな

りますから。

倉橋 小學校では、ここまで行かせるその、ここまでが大事です。中途中途をねらふことになる。まあもしも出来ない子供の爲に考へるなら、自ら先生の氣の入る方材料の與へ方によつてその子をより多く働かせる加減は出来るわけですね。

製作の實際はよく解らないが、その考へ方として、また、ごうも製作をすることにのみ限られてそこから抜け切らないと思ふ。小學校教育に手工科のおかれたのは極く新しいことです。これは小學校教育のいろんな科目をみる、手工の持つ種類の教育効果が足りないので加へられた。そこで幼稚園の保育項目は教課を同じものでない、解つてゐても項目を並べる、その一つ、こいふ考へ、手工、云ふ一つの科、云ふ感じ方が抜け切らない様です。幼児生活、如何なる關係を有つか、云ふ事で項目は考へられねばならない、羅列的な項目の一つとして考へないで製作、幼稚園、云ふもの、ごう、云ふ風に考へられるべきか、云ふことで、私はかう考へる。とにかく製作、云ふ保育項目を幼稚園の

中に、ごう入れるか、時間で配當仕様にするのはモザイク式だ、人間の生活、云ふものは内部から外へ主觀から客觀へ、行く、云つてよい。遊戯、云ふものは藝術としての型、しては離れて考へられるのが子供の「おごり」は内的なものの自然表現で實にその子にくつついてゐるものである。唱歌は之に比べて少し離れてゐる樂譜に書く、こゝが出来、云ふ、ごうに於ても、この様な意味から見て行く、製作、云ふものは物に託してつくる物を通して現す、造り手が居なくなつても人そのものから切り離されたもの、として残る。この製作からもう一步離れたものが文字、言葉である。保育項目では唯、並べるがこの意味からも考慮されねばならない。

幼稚な子程、自分自身に近いもので生活する。子供の發達程度により、又其の時の氣持によつて、違ひ自分そのもので生活したい時、何しかして出したいと思ふ時、あるでせう。そこで、幼児、云ふものは、丁度「製作」の世界位、自分から離れた處の生活をする時期に在る、こゝから幼稚園では製作を中心に置く、云ふ、ごうになる、幼児、満三歳から、満六歳迄

の子供は唯踊り唯唱つてゐる子供では無い、觀念に迄は行かないが製作迄は行く、先年の文部省の講習で幼稚園に於てなぜ製作を中心にするか云ふ處で、私はこんな風に云つたと思ふ。人生を御覽なさい。みんな人生に於ては働いてゐるじやないか。みんな製作をしてゐるぢやないか。人生は製作を以て中心にしてゐるじやないか云ふことを云つたがそれでは何か足りない處があつた。それが前に述べたこゝで補はれると思ふ。そう云ふわけで、出來上つた結果の善し惡しを考へないわけでは無いが、製作に託した生活が如何に幼兒らしくあるか云ふこゝが第一に上げられなければならぬ。

だから云つてうまくまづく云ふ事が全然問題で無いとは云へない。人類文化から見れば上手なのがいゝ。併し、それよりもその製作に託して如何に生活するかと問題である。長い間製作をして居れば結果に於いてテクニクも上手になるが、その間に自づこ數や文字の觀念がはつきり與へられて來ます。

私は、大きい仕事小さい仕事といふことを申しますが、

具體的即ち生活的だといふ意味で大きい製作は全體的製作です。全體的を申してもいろいろ程度はありますが、出来るだけ部分的に見てのうまいまづいといふのをさけて、全體的なものにして行かうとする時に、その中に澤山の教育効果が含まれて行くのです。うりや遊びをする時に、店には何がぎれくらある、字が書いてある、といふこゝになつて小學校低學年だこ數學教育や文字教育に結びつけてしまふ。幼稚園ではそこまで持つて行くべきではないが、そこに發展して行くのである。これによつてぎれだけ生活の間口が含有されるかが、今日の幼稚園製作を考へて行く要點になるのではないか。一般の人は、未だこゝも、製作といふものを技術のものこ考へる傾きがある。何だか小學校でやる手工のやさしいものを持つて來る考へがまだこゝり來れないと思ふ。

B 先生のお話を承るこ個人製作云ふものこれは極端に云つて無い方がいゝと思はれるのですが。

倉橋 個人製作では生活の發展性が無い、其處迄ひろがる爲には大勢の方が樂なわけではないでせうか。共同製作

だミ、誘はれてしたい氣持が出て來ますが個人製作はさうはいかないからその無理は避けたい。皆が同じ箱を一齊に拵へるさいふ場合生活の必要からミ云ふのは考へられるが技術なんて云ふ方からは意味はない、(幼稚園では)、友達がしてゐるから自分もしたくなるそんなここから皆同じものを拵へるミ云ふことはあり得るが、皆一齊に同じ箱を拵へたくなる、また拵へるなんて云ふ事が有り得るだらうか？同一性の中に置かれるミ云ふことに意義を感じる子供もあるにはあるが。これだミ先生はらかなものですよ。

B そりや分つて居りますすけれども一人で四五十人も受け持ちますミ。

A 私も、はいりたての子は製作の様子も分らない手も動かないので、私の計畫から入つてまゐりますすけき。

倉橋 はいりたての子供に、豆を一皿、ヒゴ、を與へて、さあこほして御覽なさい——。斯うして次第に幼稚園に適應させて行く。それを悪いこは申しますまい。けれどもそれを製作だミは云ひたくない。

昔の幼稚園はそれがむづかしくなつただけで終りまでそ

れで行つた。それは作業ではあるが製作ではない。他の必要があつてやるのをそれをいかぬミはいへないけれど。つくづく手が足りないので仕方がない、さいふ事は澤山ありませうけれども、何時迄もそこに止つてゐるは際限がない。

理想的の條件のミのつてゐる子供達を集めたなら初めから理想に引き入れるこは可能だが——。最初の間はこもかくミして、併し何時迄もこの調子で止つて居てはいけない。

O 共同製作許りですミ、五六の子供のみを活動し他の子供は唯自由遊びで過してしまふミ云ふ様な事はさうでせう。

倉橋 Aさんの案じる問題になるが、研究の餘地がありませんね。

C 綜合製作の場合これはこの子、あれはあの子にミ各々に適當に與へる事が出来るのではないでせうか。

倉橋 社會には、やさしい仕事で忙しくしてゐる人もありルンペンもあるが、何ミか配分がありません。個別製作

で、同じものからスタートして個人的に指導する、その位の努力をかければ、共同製作の中で職業紹介所の役をこつて行く事も出来よう、共同製作の中でつかまへて行く機會は

ありやしないか。個別製作を云つた場合出てくる價值は心理價值の方が主となり、総合製作の場合は勿論総合的全體的興味喜び即ち社會價值生活價值が主になる。心理價值を輕んずるのではないが、前者に於いて後者の興味を取り入れる事はむづかしい。後者には全體的によるこびがあり、その中に、先生の指導によつて心理的發展を圖る事が出来る。製作の心理的發展の方が歴史的に勝れて研究されてゐるが、総合的の方の研究はまだ充分に手がついてゐないだけにうまく指導しにくいでせう。残る問題は四五十人を狭い部屋で材料費も少くてやる場合、之が何處迄實現し得られるか云ふ事です。こんな状態でも出来るものは一齊個別的なものを與へて個別指導を圖るに云ふことになるのでせうが、まだく製作を子供の本能的遊戯を負けない位興味を持つてやる綜合アソビにまゝこびがあります。要素とする綜合遊びを研究して行く問題がたくさんあるんぢやない

かと思ふ。私のは一つの考方であつてそれ以外のはいけないといふのではない。市内の幼稚園でなんかはさうしてゐるでせう。

B 二年保育の子なごは幼稚園生活にも慣れて自分の考へをその製作に於てぎんぐ出して行くに云ふ風になつてます。

倉橋 それがうまく行つてゐますか

B 私の所なきではうまく行つて居ります。

倉橋 入園したての子供にはさういふ様にしてゐるのですか。昔はいきなりお新粉細工をしたけれごも。

K 手が充分にある時はそろく構成遊戯に入りたいたいと思ひます。

倉橋 家庭にしても幼稚園にしても、何も此方で手を出さなくとも子供の方は構成遊戯をして何かやつてゐますね。

K 積木なきは構成遊戯の中に入つてゐるのでせうね。

倉橋 構成遊戯の中には積木が多いです。積木は子供の方からいへば我々の「いろは」「アルファベット」の様なもので

せうね。都會の子供の構成遊戯である積木は具體的の製作し紙を剪つたり貼つたりする材料から始る製作は違ふ。

B 入園したての子供の取扱は特殊に致します。南京玉を通すか折紙で遊ぶかして眞の製作でないとして家庭でやつてゐる様な事をしてよろしいでせうか。

倉橋 材料を征服して行くさいふ事は愉快なことです。南京玉を通すさいふ様なことは、物の征服さいふ事に於て樂しむ。物を折つたり曲けたり等さいふこはみな材料の征服です。征服の愉快がありますね。

家庭なごでは何うして構成の方に入つてゆくのでせう。
K 小さい組でも幼い子供は構成遊戯に入りません。ブラ／＼して居てそれで樂んで居ります。

倉橋 及川先生の製作の本の一番初めは何でしたか。

及川 つなぎ方です。之は小さい人にも出来るさしあたるいもので、後には構成の要素になつて行くものです。

倉橋 本能的征服の愉快から教育へに移す時にそこに問題がある、實行へのうまさに行くも一法。實體へ行く一法。二者の何れに先づ目をつけるか。

この位の時期から實體を前にして實體を表現するやうになりますかね。

S 大きい組ではもう實體に入つて居ります。小さい組ではそれが出来る子も出来ない子もございますわ。子供自身の考へから生れるのでなくても暗示によつて生れて來るのも入れていゝのでせうか。

K 小さい組の、一學期の興奮状態がすめば、出来ると思ひます。

O 口だけではあゝして斯うしてさうまく申しますが、物を與へて自分で作らせるに實際は出来ない子がありません。

倉橋 野蕃人では子供さいへさも生活に直面して居るから作りませんが、都會の子供はむしろ出來てゐる物を利用して遊ぶことになつてゐるからそこらが違ふ。製作さいふ教育は低學年でなければ自分が思つてゐるものをぎん／＼作る事は出来ない。ですから、幼稚園時代では先生が一緒に作つてゐるからないかさいふこが大變影響します。例へば時計屋さんならば、子供はそれを作るこによつて興味

を得る。先生が作つてゐれば子供も作りたくなる。そこで、問題のどこ迄持つて行くかといふことになりましたが、技巧は必要に伴ふ程度に止めておいて實體製作の方に重きをおきます。田舎の子供は實體製作をしてゐるのです。都會では既製玩具があり過ぎるのでそれが實體製作をやりがたくしてゐる。

如何にしたら實體製作へ進んで行く事が出来るか。アメリカ式のプロジェクト、メソッドは「人間の生活々動を論理主義に解釋してゐる」或人はいふが、用途を先にしなければ作らぬといふ論理主義にしても、これは實體製作に連れて行く方法であります。反面的にいへば、昔の材料を本態にするやり方は實體製作に導く効果を持つや否やといふ事です。幼稚園を卒業する頃になるに作るために作るといふことは興味が無くはないか。

K 矢張り喜んでして居ります。

O 私は、子供が自ら作り出せるまでになる近道の方法として、みんなの子供に作らせる方法も取つて居ります。

倉橋 練習といふことになしに、作らうといふ意志が作

つてゐるうちに發達して来る、それと同時に上手にもなる。それが所謂昔からの教育といふ意味だが、もう一つ、いきなり何ミかその作り度いといふ子供の氣持に結びつけてやつて居るうちに、従來の教育の目的がなされて行くと思ふ。

O それぢや私共の今までのやり方は親切が過ぎるのでせうか。

倉橋 片方のは不親切になるおそれがある。けれどもその親切は後になれば生活に結びつくか、作らうといふ、イメージを外に出さうとする性根に、ぢかにふれてはゐない氣がする。「これを作りませうな」の方法によるミ、幼稚園に來ればこそ課せられてゐる仕事ですな。

今日の製作では兎にも角にも缺が使へないといけなからミチキのけいこをやる。自己に觸れない物を製作してゐる事がある。製作を通して生活を指導してゐるミするミ、その子から出たもので出發させたい。子供には獨立の出發性は出來ないから出發迄には先生の工夫がいりませう。